

<減肥ポイント>

- 有機物を活用する。窒素減肥では特に高温期の作型で有機物から窒素の無機化が見込めるため、最大限活用する。
- 土壤可給態リン酸が一定量を超えたほ場では、リン酸肥料の施用量を削減、または代替資材を利用(リン酸肥料コスト削減)

(1) 有機物・堆肥中の肥料成分を活用する技術

使用する堆肥に表示された成分含有率に肥効率(Ⅲ有機物の肥効特性の項参照)を掛け合わせると堆肥中の有効化する肥料成分を計算できる。こうして求めた有機物・堆肥中の肥料成分は化学肥料の施肥量から減肥することができる。

堆肥中の有効化する肥料成分は「Dr. 大地」(平成20年度普及技術)を使い算出できる。また、「Dr. 大地」では土壤分析に基づいた土壤中の窒素・リン酸・カリ、有機物中の窒素・リン酸・カリの肥効を組み込んだ施肥量が算出でき、普及センター及びJAで助言を受けることができる。

(2) リン酸施用の削減、または代替資材の利用による施肥コスト低減技術

タマネギでは、**土壤可給態リン酸が 50~100mg/100g 乾土程度残存**する灰色低地土畑では、**リン酸無施肥でも 1~2 作は生育や品質、収量に影響を受けず**、リン酸成分の不要分の施肥コストを削減できる(平成18年度普及技術)。また、土壤可給態リン酸が 60~110mg/100g 乾土程度残存する灰色低地土畑では、コーンコブ堆肥をリン酸源として施用しても、収量・品質は同等であり、リン酸成分の代替分の施肥コストを削減できる(平成21年度普及技術)。

<関連普及技術>

- ・コーンコブ廃培地堆肥は1年生野菜・花きでは2t/10aを上限として化学肥料代替ができる(平成18年度普及技術)
- ・コーンコブ廃培地堆肥の窒素無機化及び分解特性(平成18年度技術情報)
- ・土壤診断・施肥診断支援システム「Dr. 大地(ドクター大地) Ver. 3」の活用法(平成20年度普及技術:技術者・指導者向け)
- ・80℃16時間水抽出とCOD簡易測定キットによる畑土壤可給態窒素の簡易判定は長野県においても活用できる(平成25年度普及技術)
- ・灰色低地土での可給態リン酸残存量と根菜類等の生育・収量(平成20年度技術情報)
- ・根菜類ではりん酸肥料の代替としコーンコブ堆肥が利用できる(平成21年度普及技術)